

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	併設のデイサービス・知的障害者授産施設等と日常的な行き来を行っており、また行事等を通して、積極的に近隣や馴染みの人との交流が行われている。	今後とも継続していきたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のミーティングや個別でのケアプラン会議でより具体的なケアとして実践出来るよう計画し行っている。	今後とも継続していきたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	面会時や運営推進会議等で、説明をしたり、家族と話す機会を設けている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	併設のデイサービスまた在宅介護支援センターで、近隣の方をよんでの集まり(温泉デイ・予防教室等)を開催している。当ホームについて理解して貰っているとともに、顔なじみの関係も出来ている。入居者の散歩中、気軽に声を掛けて貰ったり、見守りの目としての協力をえている。	気軽に行き来できる関係を今後とも続けていきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の神社で行われる宵宮や公民館で行われるしめ縄飾り作り、等、地域の行事に参加している。また、毎年、夏祭りや収穫祭を当法人で行っている。	今後も、地域の行事に積極的に参加していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	併設の在宅介護支援センターを中心に、介護予防教室を開催したり、毎年11月には収穫祭を開催し、当法人の田んぼや畑で入居者とスタッフが収穫した農産物や加工品、手工芸品を販売する。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価後、各書類、記録等の見直しを行い、不備があった点については関係者全員で検討しながら整備している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回開催してきた。現在の状況や行事について等報告したり、意見交換する機会を設けている。ホームページの作成等の要望があがり、現在更新し新しいホームページとなっている。		頻繁にホームページを更新し、リアルタイムな情報を掲載していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	同地域の居宅事業所と包括支援センターと小地域ケア会議を実施してきた。H19年度より、必要なケースがあれば開催することとしている。		必要に応じて開催としたが、今後も市町村や地域の事業所と連携をとりながら、必要があれば開催していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は、成年後見人制度の研修を終え、制度を利用する事も可能となっている。また、併設の居宅介護支援事業所や在宅介護支援センターの協力のもと、相談があった場合は、対応している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待等についての資料は回覧し、研修があれば積極的に参加している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約にいたる前に、重要事項説明等の資料を用い、十分な時間を掛け、説明している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口と第三者委員の設置をしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月一回、施設広報(あまのがわ通信)を発行し、写真や毎月々の様子を掲載している。また、体調等に変化があった場合、すぐに電話で連絡を行っている。	家族にしか判断できない事も多く、その都度、話し合いを持ったり、家族との関係は重要と感じている。今後とも継続していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口と第三者委員の設置をしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送りや毎月行われるケアプラン会議等で聞き取り、また必要であればその都度意見や提案を聞く体制をとっている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事計画等に合わせて職員体制を調整・確保している。必要であれば、他部署の協力も得ながら、無理のない勤務体制を確保している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	併設の施設との行き来の機会が頻繁に行われ、各職員が顔なじみになっている。異動の際もスムーズに行われる様に配慮している。また、異動によるメリットもあるので、適宜の判断をしながら行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各事業所から事例を提出し、検討会を定期的開催している。ケースとして、取り上げられる対象者と担当者また事業所の現状にも触れられ、自己を見つめ直す機会ともなる。その他、外部の研修にも参加している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の会合等に参加し情報を得ている。また、福祉関係者の見学等、受け入れをし、情報交換の機会を積極的に活用している。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	自己を鍛える為の適度なストレスは必要と思っている。本人や主任から状況を申し出てもらい、スーパーバイザーとしての理事長と職員との面談の機会を設けたり、管理者と日常的に話す機会を設けるようにしている	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年度初めに本人の意向を聞き、資格取得や研修に出られるようにしている。資格手当の制度を設けている。職員との面談の機会を設けたり、日常的に話す機会を設けるようにしている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居に至るまでは、時間をかけ、本人や家族との面談を行っている。また入居後は、家族の協力も得ながら、担当スタッフを中心に、根気強く話を聞く機会を作っている。言葉通りの理解だけでなく、意識下にある訴えや要望にも思いを寄せている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居に至るまでは、時間をかけ、本人や家族との面談を行っている。また入居後も、家族関係が断たれないように支援したり、調整を行い家族の意向を理解する努力をしている。	家族にしか判断できない事も多く、その都度、話し合いを持ったり、家族との関係は重要と感じているので、今後とも継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の内容によっては、他のサービス利用を勧めたり、他のグループホームを紹介する事も行い、必要としている支援を提供できるよう心がけている。併設の相談事業所やデイサービスの協力も得ながら、相談に対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申込後の待機中は、環境に慣れたり、スタッフと慣れた馴染みの関係を築ききっかけとして、併設のデイサービスの利用を勧める。また、宿泊の体験利用を勧めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	四季折々の行事や農作業を行う事も多く、利用者がスタッフを指導する場面があったり、利用者主体となる事が多い。また、「居る」という存在から、様々な人生を伝えて貰っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事などの機会には、積極的に家族の参加を促し共通の体験の場を持ったり、また日常的にも定期的受診は原則家族が行う事とし、入居後も家族の協力が必要な事は多いので、話し合う機会を大切に考えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前、また入居後も、面談を行ったり、面会時に積極的に話す機会を設けている。		家族にしか判断できない事も多く、その都度、話し合いを持ったり、家族との関係は重要性和感している。今後とも継続していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	GHに訪問してもらいやすい環境作りや、対応を心がけている。家族の方を呼んでの行事などの機会には、家族の参加を促している。逆に、実家訪問やお墓参り、なじみの理容店やレストランなどにも出掛けている。		個々の生活歴や人間関係を理解しつつ、それらの機会が増えていくように支援していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	それぞれの個性がグループダイナミクスとして動いている事をスタッフそれぞれが理解し、寄り添い、支えていくように努めている。利用者同士の居室訪問やお茶、同じ趣味を持つ人との外出(演劇、コンサート・居酒屋等)など行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	併設の居宅介護支援事業所や在宅介護支援センターの協力も得ながら、継続的な支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日勤帯のスタッフが居室担当として1~2名を受け持つ。毎月ごとに日誌を振り返り、ケアプラン会議を実施している。困難ケースは、その都度ケース会議を開いている。		今後とも継続していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居についての相談時や、入居の際、家族より情報を得ている。入居後も、その都度、居室担当を中心に連絡を取り合っている。実際に暮らしていた家や生活環境を見に行くこともしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	業務日誌に1日の様子と個別の記録があり、個人の様子は、個別記録に詳しく記録している。朝の申し送りでも特変等も把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月、ケアプラン会議を、管理者、各グループホーム主任と、担当部署スタッフ参加で開催し、担当が1ヶ月の評価を会議で検討し、翌月のケアプランを立てている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	施設サービス計画書を3ヶ月に1回立てている。他に、毎月のケアプランで1ヶ月の様子を振り返っている。身体状況等の変化は、その都度、家族に連絡をとり、施設の看護師や主治医と相談し対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、個別記録に日々記録してる。各居室担当が1ヶ月を振り返り、評価し、ケアプラン会議で検討している。		今後とも継続していきたい。
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の希望により、柔軟に外出に対応している。希望により、地域のサークル活動への参加、付き添いを行っているケースもある。また、家族が対応出来ないとき、介護保険外でオプション料金を設定し、病院受診を行っている。		今後とも継続していきたい。
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	希望により、地域のサークル活動への参加、付き添いを行っている。離ホーム時は、警察、消防の協力を得ながら捜索に当たる体制を取っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	同地域の居宅介護支援事業所と包括支援センターと小地域ケア会議を実施してきた。H19年度より、必要なケースがあれば開催することとし、その場を活用し、支援する体制をとっている。		必要に応じて開催としたが、今後も市町村や地域の事業所と連携をとりながら、支援体制をとっていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	同地域の居宅事業所と包括支援センターと小地域ケア会議を実施してきた。H19年度より、必要なケースがあれば開催することとしている。		必要に応じて開催としたが、今後も市町村や地域の事業所と連携をとりながら、支援体制をとっていきたい
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは、必要な情報として、日々の日誌、バイタルチェック表や個別の食事記録等を用い連絡をとりあっている、必要ときは、スタッフが付き添い、直接相談するケースもある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		<p>ケースに合わせた体制を柔軟にとっていきたい。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		<p>今後とも継続していきたい。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		<p>今後とも継続していきたい。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		<p>今後とも継続していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人一人の関係を大切に、得た情報は内部にて共有し、外部には漏れないように各スタッフに指導している。また個別ファイルを作り、個々の記録や情報は、2階事務所で保管管理している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	他では徘徊といわれるケースも、本人にとって意味ある事ととらえ、その行動を抑えることなく、散歩と称して同行している。「何をしたいのか?」「どういう意味があるのか?」という視点を持ち関わるよう日々ケースについて検討している。	個々の事例検討を時間を掛けて行う事がとても役に立ってきた。日々の業務に追われるなか、最優先として今後も継続していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎月開催のケアプラン会議で1ヶ月を振り返り、どう過ごしたいのか、本人の希望や様子から、見立てスタッフ間で共有している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	なじみのお店に同行し出掛ける。また、家族に協力してもらうこともある。	個々に合わせた対応をとっていきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付け、日々の家事全般を一緒に行っている。台所で自身の調理をする方もいて、見守りが必要であったり、作業を共に行ったりしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒について、嗜好の範囲で、毎晩の晩酌も可能である。タバコは、場所を決めさせてもらっている。スタッフも一緒に一服を楽しむこともある。おやつを自己管理されている方もいる。	個々に合わせた対応をとっていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表を作り、個々の排泄パターンを知り、誘導している。		今後とも継続していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は目安としてあるが、それぞれの希望の時間に入浴可能となっている。デイサービスの大きな浴室や温泉に出掛けて入浴を楽しむこともある。		今後とも継続していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者が自分のペースで過ごせるようにリビングや廊下にソファを置いている。テラスや玄関先に椅子があったり、和室も自由に利用され、寛げる空間となっている。日中、居室で過ごされる方もいる。		個々に合わせた対応をとっていきたい。
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	併設の知的障がい者授産施設で耕作する農業に参加する機会も多く、そこを基盤とした暮らしが「銀河の里」の中にはある。各部署の畑もあるが、その他田んぼや畑を障がい者と作業したり、見学したり、おやつを届けたりとする機会が多い。そういう中に楽しみを見出したり、生き生きとした表情をみせてくれている。		基盤となる農業を中心に、ケアを超えた四季折々の暮らしが営まれ、世代や障害を越えた関係がはぐくまれていく。そういう中で、スタッフも喜びを感じたり、成長したりしていくのではないかと考えている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、預り金として管理しているが、本人の能力と希望に応じて所持したり、買い物と一緒に掛け、個人の買い物をする方もいる。		個々に合わせた対応をとっていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望で毎日定時の散歩に出掛ける方や市のサークル活動に参加される方もおられる。また買い物と一緒に掛け、食材を選ぶなど、外出の機会があったり、地域の行事に参加したりと計画、支援している。		個々に合わせた対応をとっていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	四季に合わせて、外出行事を計画しスタッフや家族と出かけている。また、個別の希望に合わせて地域のサークル活動や観光会社のバスハイクへ参加することもある。		今後とも継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム内にある電話は、誰でも使用可能になっている。家族の理解も必要となるケースもあるが、毎日電話する方もいる。また、家族親類からモノが届いた際、お礼状を書いて返信したり、電話をしている。その際必要な支援を行っている。		今後とも継続していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	リビングでお茶をしたり、居室でゆっくり過ごされたり、自由にくつろいで頂いている。居室で一緒に過ごされたり、場合によっては宿泊される事も可能で、定期的に宿泊される家族さんもいらっしゃる。		今後とも継続していきたい。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には身体拘束をしていない。身体に危険が及ぶ等の危険が伴う場合は、その都度家族と話し合いを持ちながら了承を得て行う。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出傾向のある方の行動パターンや気持ちの理解に努め、その変化に気付くことで、鍵を掛けるのではなく、外出へ同行するようにしている。逆に入居者が自ら鍵を掛ける事があり、プライベートな空間として守るようにしている。(その場合は、巡回時に、職員は解錠して、安否の確認はしている。)		今後とも継続していきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の行動パターンや気持ちを日々の申し送りやケアプラン会議などで理解を深め、また共有して、見守りにあたる。スタッフ間で声をかけ自分の今の役割をお互いに確認し合っている。必要に応じて、GPSの利用もしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物は保管場所を決めている。普段は目に付かない場所に置いてある。包丁やはさみ、針などは、必要な際に出してきて、一緒に作業することで、見守りのなか使用している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリとしたことは、申し送りノートや日々の申し送りで伝え合い共有している。事故発生時には、管理者とともに、原因を追究し今後の対策を話し合っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署主催の「上級救急救命講習」「防火管理者講習」等に参加し、その内容を持って、事業所内で研修を開いたりしている。		今後とも継続していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災発生時用に、緊急警報装置を各事業所に設置している。その他、緊急連絡網をつくり、すぐに近隣スタッフがすぐに駆けつける体制をとっている。年二回の避難訓練を実施している。		年二回の避難訓練の他、夜間の避難、スタッフの集合訓練なども継続して実施していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	個人の状況に応じたリスクについて家族と話し合い、了解を得たり、電話や訪問時に様子を詳しく伝えている。また、施設賠償保険や個人賠償の保険の加入もしている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の申し送りで状態の変化があれば伝え、看護師に状態を見て貰い、必要な対応をとっている。申し送りノートで他スタッフと情報を共有している。		今後とも継続していきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日早番が服薬箱に薬のセットをしている。薬と共に最新の処方箋を個々にファイルし、いつでも確認できるようにしている。病院受診や薬の変更などある時は、健康管理や個別ファイルに記入している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	運動不足になりがちなので、散歩や掃除、ゴミ捨てなど誘い、体を動かす機会を提供している。朝、タヨーグルトを食べたり、おやつに寒天ゼリーなどとり入れている。健康茶、漢方薬も活用している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時、朝食後、就寝前など歯磨きへの誘いをしている。歯磨きを言葉で理解できない方には、介助を行ったり、入れ歯の洗浄をしたりしている。必要に応じて歯科受診を勧めている。		今後とも継続していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ミキサー食を用意したり、糖尿の方には量や調理方法を工夫したり対応している。水分をとりにくい方には、ゼリーを用意したり、水分にとろみをつけて摂取して貰っている。本人の希望により、牛乳を毎朝飲む方もいる。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作っている。また看護師の指示のもと予防対策や感染防止対策を行う体制をとっている。		今後とも看護師の指導の元、体制を取っていきたい。
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	職員、入居者共に食材に関わる前の手洗いを行っている。食材は冷蔵、冷凍保存し、使う都度取り出し使用し、保存方法や賞味期限に注意している。食器は乾燥機を使用し、消毒もしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花壇やプランターに花を植えている。玄関またテラスからの景色は眺めも良く、長いすを置いて寛げるようにしている。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やテラスからの風景が四季を感じさせてくれる。秋には敷地内に餅米のはせがけを行ったり、冬には干し柿や干し大根など季節を感じさせてくれる。リビングには、写真や季節に合わせた装飾を行っている。		今後とも継続していきたい。
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダや和室、廊下、玄関先、居室など、各場所にソファや椅子を置いたり、あえて死角の場所を作るなどの工夫もしている。		ハード的な面の工夫も必要だが、スタッフが個々の入居者を理解し、一人の時間・空間をそっと見守るような、さりげない関わりも大切と考え、今後とも入居者への理解を深めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時に説明し、入居時にはなじみの物を持ってきて頂いている。入居後も必要な物を相談、検討し、家族と相談しながら、居室作りを行っている。		家族との関係を大切にしながら、今後も入居者の方を支援していきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	全室換気扇を完備。掃除の際や天気の良い日等、窓を開け換気に努めている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	備え付けの手すりのほか、現在の入居者の状況をみてトイレや浴室には、後付の手すりを設置。車椅子対応のトイレがあったり、和室や玄関には中途半端な段差ではなく、ある一定の高さを付け、段差を意識するよう工夫した造りとなっている。		入居者の状況に合わせ、福祉用具等を活用して、生活しやすい環境を作るようにしていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	家事場面では、自然と手が伸び参加してくれる方が多い。手を出さなくても見たり、話題を提供してくれるなど、それぞれができる所で関わってきてくれている。作業としてできないことは、さり気なく援助し、できないことも共に考え、自助具や福祉用具を活用していけたらと思う。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	それぞれ部署に畑があり野菜と一緒に作ったり、収穫したり、採れた物を調理し食卓に上がったり、他部署に届けたりと楽しみが多い。テラスや玄関先からは見晴らしがよく、椅子を置きゆっくと過ごせる空間になっている。お茶を飲んだり、1人やスタッフと1対1のくつろぎの時間を過ごすこともある。		今後とも継続していきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)